

生誕150年 金子直吉翁 たたえる祭り

今から150年前、仁淀川町（旧名野川村）で生まれ、6歳までの幼少期を過ごした直吉は、家族とともに高知市に移り住んだ。貧しくて学校へ通えなかった直吉は、10歳から紙くず拾いや、砂糖商、乾物屋の奉公等を転々とした。しかし、母が質屋の働き口を見つけたことが大きな転機となった。14歳の直吉は、母のために働きながら質草の本を読むことであらゆる分野の学問を吸収し、多様な基礎や知識を身につけた。後に“わしは質屋総合大学卒じゃ”と自称したと言われている。



直吉の非凡な才能を生かしたいと考えた質屋当主等の計らいで、20歳の時に神戸の砂糖問屋鈴木商店に奉公に出た。そして、8年後に鈴木商店当主が亡くなってからは、未亡人よねと幼い後継ぎに身を捧げ、天性の商才を発揮する。

近代化が進む明治後期、鈴木商店の“大番頭”の直吉は、樟脳を手始めに海外貿易で事業を拡大して、大正時代の絶頂期には財閥の三井・三菱を抜いて日本一の総合商社になり、売上高は国民総生産の10%に達した。その功績は、日本の近代産業の礎を築いた一人と讃えられている。

直吉は郷国土佐を生涯愛し、土佐人であることを誇りに思っていた。妻は土佐から迎え、高知商業生を多く採用するなど、鈴木商店は土佐人が目だっている。性格は、私利私欲無く、質実剛健で一徹の“いごっそう”。多くの人材と事業を残したことで有名である。

金子直吉を語る

玉岡 かおる

たまおか かおる

1956年、兵庫県三木市生まれ。
神戸女学院大学卒業。

'87年神戸文学賞受賞作の『夢食い魚のブルー・グッドバイ』で文壇デビュー。代表作は、山本周五郎賞候補作となった『をんな紋』3部作、『天涯の船』、『銀のみち一条』、『負けんとき ヴォーリス満喜子の種まく日々』ほか多数。

鈴木商店、金子直吉を描いた話題作『お家さん』で第25回織田作之助賞を受賞。

執筆のかたわら、テレビやラジオにもコメンテーター、パーソナリティーとして出演中。

鍋島 高明

なべしま たかはる

1936年高知市介良生まれ。

私立土佐高校を経て、'59年早大政経学部卒、日本経済新聞入社。'72年編集局商品部次長。

夕刊コラム「十字路」に執筆、

'83年編集委員、朝刊「中外時評」に執筆。

日経産業消費研究所、日経総合販売取締役を経て、現在、市場経済研究所代表取締役。

著書『幸徳秋水と小泉三申』、『反骨のジャーナリスト 中島及と幸徳秋水』、『大番頭金子直吉』、『岩崎弥太郎 海坊主と恐れられた男』、『高知経済人列伝』ほか多数。

山村自然楽校 さと しもの郷

〒781-1762 高知県吾川郡仁淀川町下名野川 619 番地
TEL/FAX 0889-36-0005

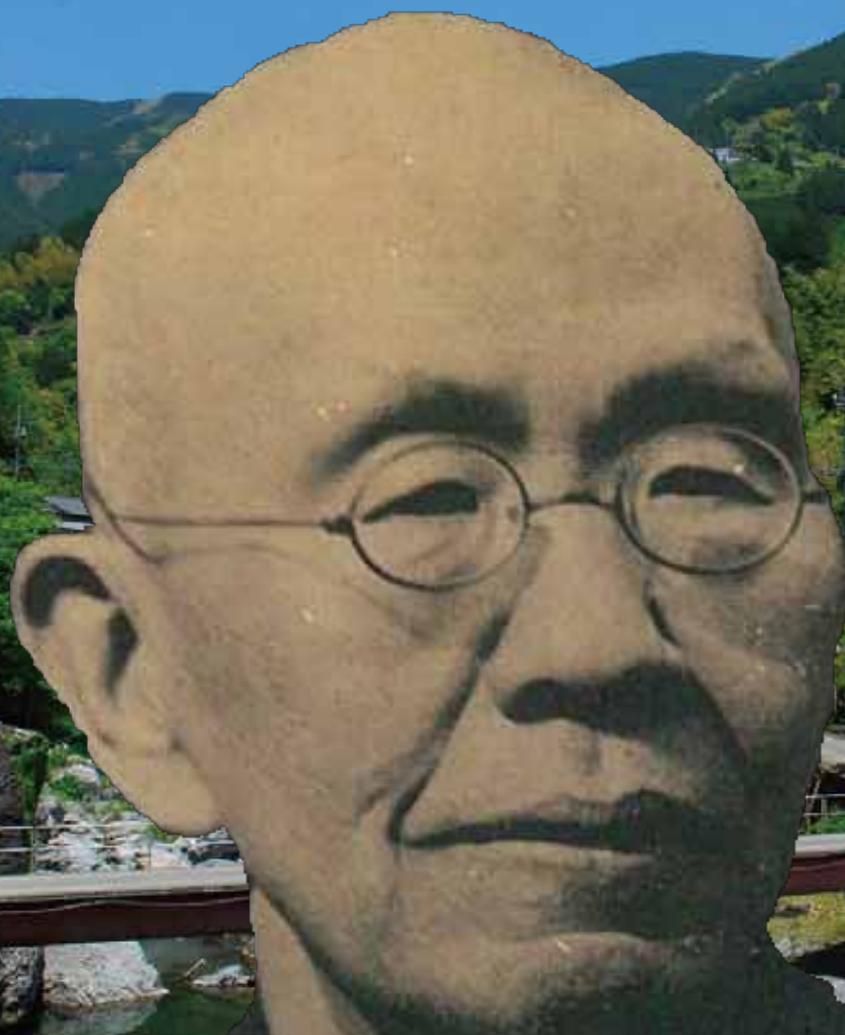


仁淀川町で生まれた産業界の偉人

経済界のナポレオン

鈴木商店の大番頭

金子直吉



生誕 150 年

金子直吉翁 たたえる祭り

「土佐の国はわが財界に二大偉人を送った 一は岩崎弥太郎、一は金子直吉だ」 福沢桃介

2016年 **10**月**10**日 (月)
10:00~15:30

11:00 ~ 基調講演① **玉岡 かおる**

13:00 ~ 基調講演② **鍋島 高明**

14:10 ~ パネルディスカッション

[会場] 山村自然楽校 しもなの郷
高知県吾川郡仁淀川町下名野川 619 番地 Tel.0889-36-0005

仁淀川町の地場産品を販売します

12:00 ~

「名野川磐戸神楽」の特別演舞

お問合先：仁淀川町観光協会 0889-35-1333

主催：金子直吉翁をたたえる会 協賛：仁淀川町・仁淀川町教育委員会・高知県立大学・仁淀川町観光協会 (写真提供：太陽鉱工)

後援：辰巳会・鈴木商店記念館・高知県・高知県教育委員会・高知県内報道機関各社・仁淀ブルー観光協議会・仁淀川町商工会 (予定)